

油流出汚染事故後の海産物や底質ならびに海水の汚染状況、そして土壌および農作物の汚染状況を調査し、被害の度合（油の付着量）を数値化します。

# 海洋汚染調査

# 土壌汚染調査

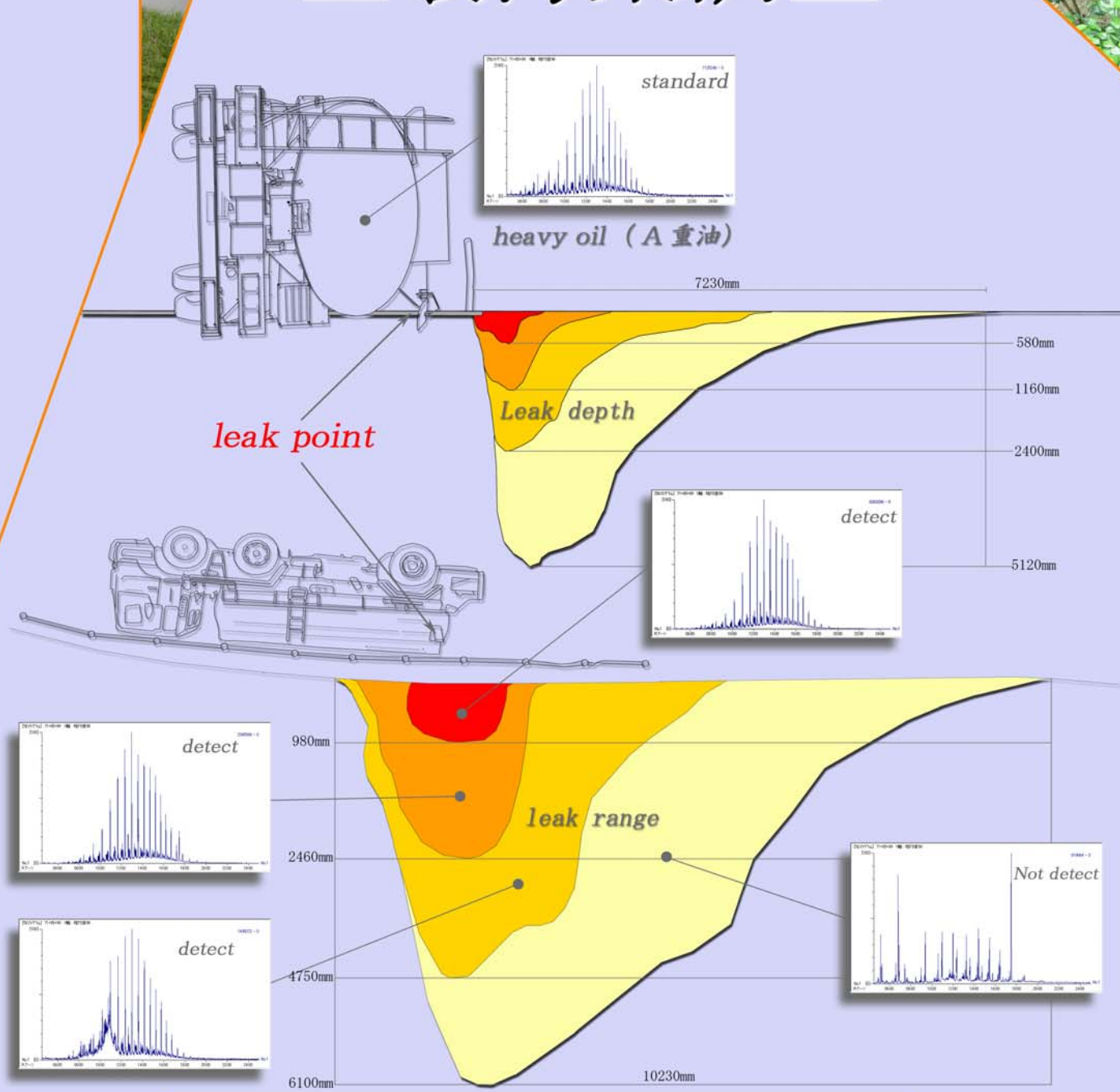
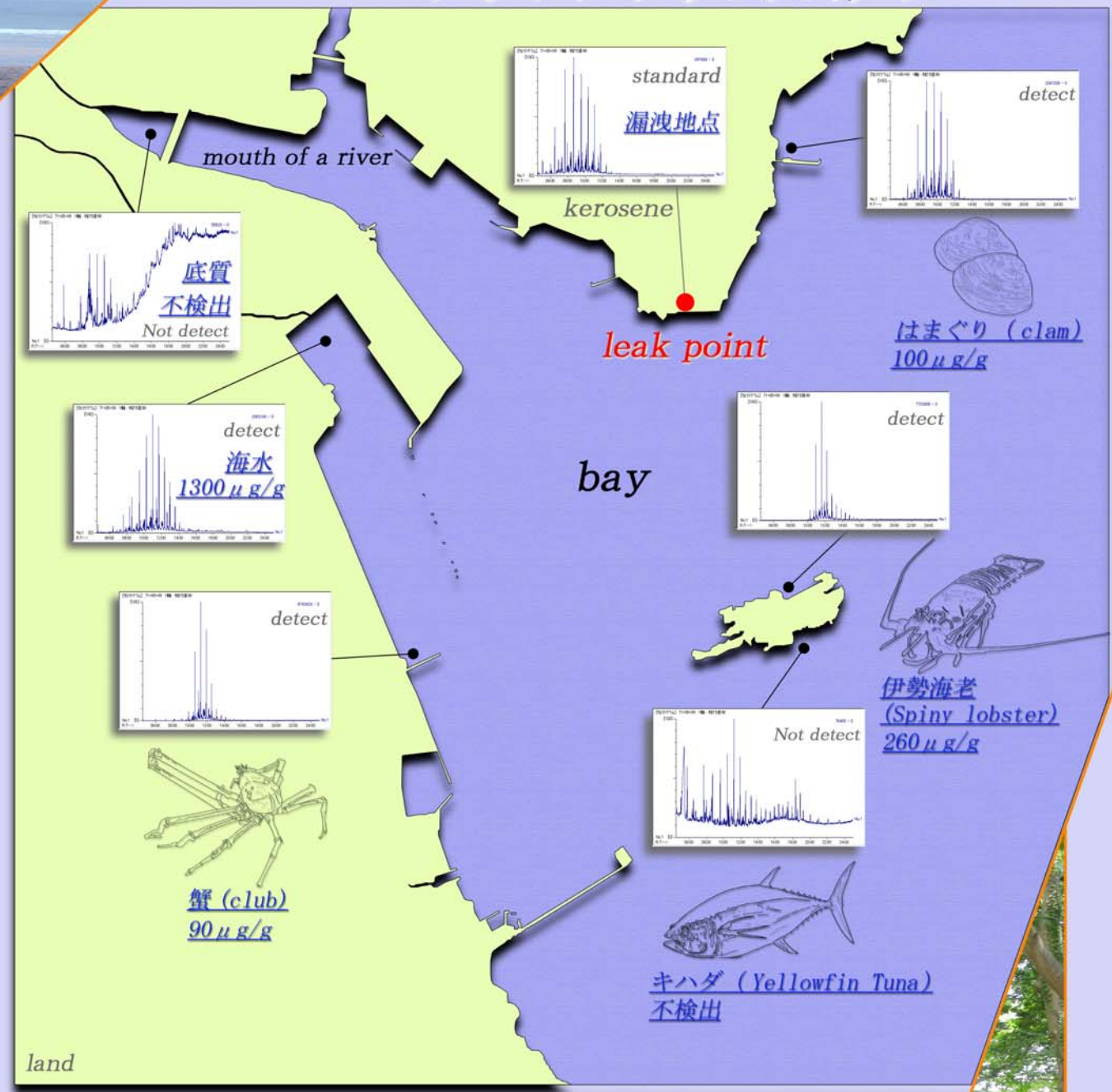


表-1 灯油が検出された試料

試料性状	試料採取地点	試料番号	検出量
砂	～前面 海砂	A-1	75000 μg/g
土	タンク前面	B-1	54000 μg/g
	タンク背面	B-2	73000 μg/g
海水	～地区沖 200m	C-1	1300 μg/g

† 灯油に換算した場合の平均値。

表-2 石油製品に由来する油分が検出された試料

試料性状	試料採取地点	試料番号	検出量
海苔	C地区 2地点	E-1	17 μg/g
エビ	V地区 4地点	D-1	260 μg/g
貝	B地区 9地点	U-1	100 μg/g
たこ	I地区 2地点	M-1	120 μg/g

† 底に灯油に換算した場合の平均値。

表-3 陰イオン界面活性剤分析結果

試料性状	試料採取地点	試料番号	検出量
海水	～土壌	C-10	0.1 μg/L
海水	～地区 1	C-11	0.06 μg/L
海水	～地区 2	C-17	0.3 μg/L
海水	～地区沖 150m	C-23	0.04 μg/L

† 定量下限値0.2μg/L.

汚染深度 (mm)				汚染範囲 (mm)			
0~500	500~1200	1200~1800	1800~3000	1500	2200	4600	6000
240000 μg/g	6100 μg/g	140 μg/g	ND	360000 μg/g	26000 μg/g	15000 μg/g	ND

† 漏洩位置からの深度方向への汚染  
† 漏洩位置からの汚染範囲

注) 記載したデータ等は実際の事故事案とは何ら関係はありません。

注) 弊社では土壌浄化業務に関しては実施しておりません。

海洋汚染調査では、海水、海砂、底質および海産物（魚、海苔、貝等）中に含まれる油等の量を把握する事が出来ます（油以外の溶剤や有害物質でも可能です）。土壌汚染調査においては流出した油の種類が不明であったり、2種類以上の油が混在している等、通常の土壌汚染調査で行うTPH法（全石油系炭化水素：Total Petroleum Hydrocarbon）では対応できない土壌でも、弊社の分析では高精度に漏洩した油分の定性ならびに定量が可能で、海洋・湖水・河川あるいは土壌などに流出した油分の分析は、株式会社 分析センターにおまかせください。ガソリン・灯油・軽油・重油など、500種類以上の油種を精度良く判定するだけでなく、海洋汚染に使われる中和剤である界面活性剤の分析も対応致します。